

2022年度事業計画

- 1、運営方針…1
- 2、事業概要…3
 - A フードバンク…3
 - B 総合相談センター…5
 - C 災害救援・復興支援…6
- 3、その他の事業…6
- 4、財政・組織運営…7

1. 運営方針

(1) フードバンクうつのみやをとりまく社会情勢

①債務不履行により「潜在的生活保護受給者」が顕在化する

コロナ前の生活保護者数は2018年で209万6000人だったが、2021年1月には204万9000人に減少している。一方で、社協による貸付（臨時特別給付金）の受給者はこの間135万件にもなっている。今後貸付の返済期限がせまれば債務不履行で生活保護者が急増するはずである。コロナ禍を一時しのぎの借金で回避してきたが、本来は生活保護の運用変更が必要であり、「コロナ禍でも生活保護は使わなかった・使わせなかった」のが国の政策であった。車の所持者は生活保護から排除、少ない給付額、オンブズマンの不在、不服申し立てが事実上できない仕組みなど、抜本的な生活保護制度の改正のソーシャルアクションが必要である。

②外国籍・外国ルーツの人の生活困窮と、制度要求のアドボカシーが必要

日本に滞在する外国人は約200万人になっている。技能実習生や留学生など非正規・不安定の雇用がほとんどで、景気やコロナ蔓延の動向で解雇されて失業、困窮する人が今後も増加するだろう。また技能実習生の家族帯同での再来日も閣議決定され、事実上の移民政策がスタートしている。

課題は、①不就学や日本語学習の困難等者への「教育」、②社会保険の未加入等の「社会保障」、③不安定な雇用等の「労働環境」、④「住宅環境」であり、現に生活者としての問題が生じている。

国・自治体に対し、外国人ルーツの人のために公共サービスを要求するソーシャルアクションが必要であり、それまでの間は、NPO・市民活動など民間で支援をしていく必要がある。

③休眠預金助成によるNPOの自己財源開発能力低下と事業の硬直化

休眠預金の助成が2019年度から始まった。休眠預金は年間700億円分配されるが、この規模は、共同募金と日本全部の民間助成団体の合計額よりも多い。本会においても休眠預金助成事業の実施団体として助成金を受け一定の成果を上げることができた。一方で、休眠預金をもらいつづけることによる「助成金依存」のNPOが増え、「財政・事業の硬直化」が懸念される。助成金と寄付集め（ファンドレイジング）が車の両輪として活動できるNPOの支援が必要である。

④SDGs達成には、企業とNPOの提携が必要

「SDGs」を目にする機会が増えてきた。SDGs（持続可能な社会のための17のゴール）は「貧困、教育、福祉、環境、人権、労働/経済、ジェンダー平等、パートナーシップなど17分野のゴールを、複数の指標を盛り込みながら皆で同時に解決していく」というものである。これらを一定の地域・エリアで解決していかないと、地球・地域社会の持続可能性は2030年を境に悪化の一途をたどるといふ。

営利の企業と非営利のNPOが提携して解決すべき社会課題であるが、ほとんどの企業は「自社の営業内容での活動」にとどまり、NPOも自分のやりたいことだけやっている。特に「複雑で多様なステークホルダーが関わるテーマ」は全く手付かずの状態である。NPOと企業を結ぶパートナーシップが求められている。

⑤社会貢献意識の高まりと「NPO合同ファンドレイジング」の必要性

コロナ禍であるが、子ども食堂やフードバンクなどに寄付をする人は増えている。これは「困窮している人の報道」を見聞きすることで「自分も何かしたい」との思いが高まったからだと思う。

一方で、現在のNPOには、本会を含め単独での広報力や営業力がなく、スタッフ不足であり、寄付の受入体制ができていない。複数のNPOが集まり合同でファンドレイジングをする方法を普及する必要がある。

⑥リモートによる社会活動の変化と「孤独・孤立・分断」の対策

この2年間のコロナ禍で、職場・学校・イベントではネットによるリモート・コミュニケーションになった。便利で効率的だが一方で「孤立・孤独な人の増加」や、「人間関係の分断」を生み出している。特に教育・福祉・市民活動では「対面でしか生み出せないもの」があり、市民活動分野では今後の「コロナとの共存」「コロナ後」を見据えた、孤立・孤独・分断で傷ついた人たちへの対策が必要である。

(2)フードバンクうつのみや (FB うつのみや) 内部で当面する課題

①コロナ禍での「対面活動」の制限

コロナ禍で「対面活動」が少なくなった。食品提供企画「きずなセット提供プロジェクト」は、対面での食品配布会（生活相談機能有）と、宅配便で自宅に配送という両輪で実施してきたが、まん延防止措置や、緊急事態宣言の発出により、宅配便での実施回数が増えた。宅配便での食品提供は、その後の相談支援に繋がりにくいため改善が必要である。

また、職員・ボランティアが集まり、親睦会・交流会を行う場を作ることができず、ボランティアコーディネーターに非常に苦戦した。

②ファンドレイジング（寄付集め）と助成金を両輪に。「支援する人が沢山いる社会」を創る

2021年度は休眠預金「ひとりにしない、させない助成」の採択により、活動費が確保できた一方、休眠預金助成事業に追われた年度でもあった。2022年度は助成金を獲得して活動する一方で、会員・寄付集めの営業活動に力を入れ、団体の基盤強化を同時進行で行う必要がある。ファンドレイジングイベントにも積極的に参加し、団体・活動の知名度向上に努める必要がある。

③研修による人材育成

職員、スタッフに対する研修が十分とは言えない。また、若い人たちの中から「場・人」に慣れた人を増やし将来のスタッフ要員を要請する。

④ボランティアと協働する組織

総合相談支援の業務は、相談支援員（ボランティア）が増え、困窮者への対応能力が拡大している。しかし一方で、ボランティアがチームとして活動するには会議の開催、意思決定、執行、振り返りなどの場面でより高度なマネジメントが必要になっている。また、困窮者に同行支援する「相談支援ボランティア」の養成も急務である。

原則としてボランティアがFB倉庫業務、食品確保、相談支援ができる協働の体制構築が必要である。

(3)2022年度の基本方針

① FBの全県ネットワーク化と、困窮者相談支援体制の強化

全県のFBのハブ機能としてVネット+本会が中心になり、食品連携と総合相談支援を普及する。相談支援のノウハウ移転と人材育成をおこなう。FB、子ども食堂、学習支援のケース共有による連動をはかる。

「独立型社会福祉士事務所+フードバンク」のセットを生活困窮者支援のビジネスモデルとして県内に普及する。

②「若者・学生ボランティアチーム」の育成と研修

20年に、泉が丘お助け隊（学生・若者のボランティア（チーム））が結成した。Vネットが実施する若者

会議(1月)や、来年どうするか会議(11月)で交流・意見出しをおこなったが、活動実現のための実施サポート、基礎的な研修などが不十分であった。今期は個人の育ち、グループの成長を意識し、社会の現状を伝えるグループワークや研修会を意図的に行っていく。

③事業企画会議、予算会議、若者会議、サンクスVクラブ、ボランティア交流会の定期化

事業創出会議(来年どうするか会議:11月)、予算会議(ボランティアの出番ですよ会議:2月)を担当職員+ボランティアとともに行い、ボランティアの育成とボランティアによる統治を社内文化として定着させる。また、夏・冬のボランティア飲み会もFBうつのみやの重要な仲間づくり活動と位置付け、職員の担当制として「仲間づくりによる活動活性化」を図る。を行い、新規巻き込みと寄付獲得の機会と位置付ける。若者会議(1月頃)は全体の中で埋没しがちな若者に焦点をあてて、若者自身の育ち(研修)・交流・新人獲得を目的にした集会を実施する。

⑤認定NPO法人の取得

認定NPO法人を申請する資格を得ているため、今期は認定NPO法人を取得するための申請を行う。課題は、事務力が不足しているのでスタッフに事務を分担して認定取得を目指す。

重点事業

(組織)

- ・重要会議の定例化・内容の充実(事業企画会議(V)、予算会議(V)、感謝の集い、ボラ懇親会)
※(V)の会議はVネット主催会議
- ・事務局スタッフの育成
- ・「困窮者ケース検討・共有」による総合相談支援の体制強化

(人事)

- ・「人事・業務評価システム」稼働による職員の能力向上
- ・困窮者の相談支援ボランティアの育成と、他のFB拠点への相談支援ノウハウの普及

(事業)

- ・フードバンクLightの展開
- ・県内のFB活動団体に総合相談支援機能を持たせる。
- ・食品配布会の実施
- ・チャリティウォーク・宇都宮を、「FB団体合同ファンドレイジング・イベント」とする。

2. 事業概要

A. 【フードバンク】

(1) フードバンク事業（生活困窮者の支援）

フードバンク（FB）への期待度が益々高まっている。スタッフもそろいつつあるが、相談支援、事務局、フェンドレイジング、広報などの組織基盤は不十分である。コロナ後の拡大する需要に対して人、モノ、金を充足するためにもより多くの人を巻き込み体系的に運営する必要がある。

今期は、県内各地のFBとともに「社会福祉士による総合相談を取り入れたフードバンク活動」を底上げしていく。

行政も困窮問題やゴミ減量への取り組みとしてFBとの連携・協働し、宇都宮市（ごみ減量課）、栃木県庁（保健福祉課）もフードドライブで協力している。

今期は特に「相談窓口の強化」に取り組む。子どもSUNSUNプロジェクトとの連動や、貧困、飢餓、生産、消費などの項目の切り口でSDGsを視野に入れて活動する。

① フードバンク Light の創設（FB うつのみや）

■内容／病気で動けない人や交通手段が無い人からのSOSが増えて、その人達への訪問手段が不足している。その対策として、訪問支援機能がある福祉施設などに食品をストックした簡易的なフードバンクの拠点（フードバンクライト）を複数つくり、最寄りの拠点から困窮者宅に支援に行く体制を宇都宮市内につくる。

既存の社会資源を有効に使うことでコストの低い支援体制を作ることができる。試験的に清原地区の地域包括支援センターと連携し、問題が無ければ順次提携先を増やしていく。

■活動日／毎日

■従業者／職員1名、ボランティア複数名

② 宇都宮市内の拠点（埴田事務所、泉が丘支所、清住倉庫）の運営

■内容／宇都宮市内の3か所（埴田、泉が丘、清住）でFBの運営をする。埴田、泉が丘の2拠点に人員を配置して生活困窮者やボランティアがアクセスしやすい環境づくりを行うと共に、清住倉庫は食品の保管場所として活用する。

■活動日／設置後毎日 ■従業者／職員1人、ボランティア複数人

③ 「きずなセット提供プロジェクト」の実施

■内容／FB拠点での相談支援による食品提供に加えて、食品6～8kgの詰め合わせ（きずなセット）を50～200個を配布する「きずなセット配布会」を行う。「対面での食品配布会（生活相談機能有）」と「宅配便で自宅に配送」を行う。

配布会の利点は、FB外の組織が集まって合同で行え、県内全域で配布会を実施できる。今期は配布会＋生活相談も各会場で実施できるようにする。

■活動日／年10回程度 ■従業者／職員1人、ボランティア10人程度

④フードドライブ(FD)と「きずなBOX」設置の拡大

■内容／FDは事務所で通年実施しているが、とちぎコープの店舗、おやまゆうえんハーヴェストウォーク、宇都宮市環境部ゴミ減量課、栃木県保健福祉課、イベント会場の依頼により出張FDを実施する。

多数の人が出入りする店舗や公共施設を選び「きずなボックス」(食品収集箱)の設置場所を増やす。

■活動日／毎日 ■従事者／職員1人、ボランティア複数人

⑤FB食品の利用／奨学米プロジェクト

■内容／「学齢期にある低所得母子家庭等への奨学米支援」プロジェクト(奨学米プロジェクト)を実施する。学齢期の子供がいる母子家庭等の家計を支援する目的で毎月米を寄贈する事業で、年間3～7万円分の生活費の応援をする。この事業はこどもSUN SUNプロジェクトのFB部門の核心事業であり、困窮家庭への発見、アクセス、米の収集などを含めて一番力を入れる事業とする。

■活動日／毎日 ■従事者／職員2人、ボランティア

⑥県内のネットワークの活性化

■内容／FB県北以外は県内のFBの拠点とはほとんど接点がない。今期はFB拠点同士で連携を促進する。ネット環境を利用したリモートミーティングを県域で行い、情報交換や連携を模索する。

■活動日／年6回 ■従事者／職員2人、ボランティア、各拠点など

⑦広報

■内容／FBと困窮者支援の周知のために「フードバンクうつのみや通信(FBU通信)」を年6回、「フードバンク情報誌」を1～2回発行する。また、宇都宮市役所・ごみ減量課等を通じてSDGsの視点での広報を企業に向けに行う。さらに民生委員児童委員地域協議会を通じて、きずなボックスや困窮者への情報源としてFB協力を呼びかける。

■活動日／年6回発行 ■従事者／職員2人、ボランティア数人

⑧人材育成(相談ボランティア養成講座)

■内容／FBの運営にはボランティアが不可欠である。特に「相談支援ボランティア」を育成し配置するために、養成講座、研修を適時実施する。

■活動日／適時 ■従事者／職員1～2人、ボランティア

(2)FBのファンドレイジング(生活困窮者の支援、NPOへの活動資金援助事業)

資金調達とともに、誰でも参加できる社会貢献イベントとして、活動参加を通じたFB活動の普及・理解

促進を図る。

①チャリティウォーク県北・県央

■内容／チャリティウォークを県北・県央地域区で実施する。今期からとちぎコミュニティ基金の、県内のFB団体の合同ファンドレイジングイベントとして実施する。(⇒とちぎコミュニティ基金)

■活動時期／6月～10月 ■従事者／職員3人、ボランティア70人

②サンタ de ランへの参加

■内容／今期もサンタ de ランに参加する。(⇒とちぎコミュニティ基金)

■活動時期／11月から12月 ■従事者／職員2人、ボランティア5人

(3)合同ファンドレイジングへの参加

①チャリティーウォーク（県央）

■内容／FB団体の合同ファンドレイジングとしてチャリティーウォーク宇都宮をとちぎる。開催場所は、宇都宮市周辺とし、FB県北とFBうつのみやとの相乗効果を狙い運営の実務を担う。

■実施期間／6月～10月 ■従事者／ボランティア20人、職員1人

②サンタ de ラン&ウォーク

■内容／子どもSUNSUNプロジェクト（子どもの貧困撃退円卓会議）の寄付イベントとして、毎年12月にサンタ de ラン&ウォーク参加する。NPO10数団体とともに実行委員会を組織し、ボランティアスタッフをくわえて、3月から毎月実行委員会を実施し、複数回の事前イベント、各団体のファンドレイジングをそれぞれ行い、寄付者層の拡大と活動の啓発普及の両方を目的に実施する。

■実施日／12月19日(予定) ■従事者／職員1人、ボランティア10人

B. 【相談支援センター】

(1)総合相談支援事業（Vの相談・助言事業）

①総合相談支援センターの運営

■内容／専従職員や関係機関、NPO、ボランティアを行うことで個人からのSOSへの対応を行い、社会課題の解決を図る。特に個人からのSOSの解決について、社会福祉士による総合相談支援センターの機能により、あらゆる生活上の困難についてワンストップで相談支援を行う。

また、「相談支援ボランティア」の育成を行う。社会福祉協議会などから社会福祉士養成校（大学・専門学校）等の実習生を受け入れ、既存の社会福祉分野では解決していない社会問題への啓発を行う。

- 活動日／毎日
- 従事者／職員 2 人、ボランティア複数名

(3) 講師派遣事業 (FBの啓発・普及事業)

- 内容／事務局員を派遣する。
- 活動日／随時
- 従事者／職員複数人

C. 【災害救援、復興支援】

(1) 救援・復興支援事業 (災害救援事業)

- 内容／国内（特に東日本）で災害が発生した場合に救援活動を実施する。コロナ感染対策を確立したうえでボランティアによる救援活動や募金活動（後方支援）を行う。
- 活動日／随時(災害発生時数日から数ヶ月)。
- 従事者／職員 2 人、ボランティア 15 人～50 人

(2) ボランティアの啓発・普及事業 (Vの啓発・普及事業)

① 『フードバンクうつのみや通信』の発行

- 内容／ボランティア・職員による取材、執筆を行う。
配付先は会員、会員以外の県内外の関係機関。
- 発行日／奇数月、年間6回発行、A4判、4ページ外側
- 従事者／ボランティア及び職員

② ボランティア説明会の実施

- 内容／ボランティア参加希望者を対象に、毎月3回程度、土曜日13時から約1時間かけて事業・作業内容について説明をする。これにより、団体・ボランティア双方の参加への意思をすり合わせ、長期参加に繋がるボランティアを確保する。
- 実施日／毎月3回程度、土曜日13時から約1時間
- 従事者／ボランティア及び職員

【その他の事業】

今年度は実施しない。(出版・編集事業、書籍販売事業、物品販売事業)

4.財政・組織運営

(1)財政運営

会員数が増えていない。ファンドレイジングイベント等での寄付者の巻き込みを図る。休眠預金とともにファンドレイジングに注力する。

また、プラットホーム分担金による共通事業費・共通人件費の確保を図る。

①会員

- ・『フードバンクうつのみや通信』を通じて食品寄付者、企業等への会員勧誘を図る。
- ・とちぎVネット関係者への会員勧誘…本会の会報に「とちコミSDGs通信」を同封し活動理解と本会会員への「ダブル会員」の勧誘をする。

②寄付

- ・とちぎコミュニティ基金…とちぎコミュニティ基金のプログラムに参加して参加団体共に寄付を集める。
100万円を目標とする。
- ・チャリティウォーク（県北、宇都宮）で寄付集める。今年度は目標金額を300万円とし、新規の支援者を募る。
- ・2022年度・FB うつのみや会員強化月間…12/1～12月末に実施する。

(2)組織運営

総会の他に事業創出会議（来年なにするか会議：11月）、企画会議（ボランティアこれしたい大会：2月）を行う。ボランティアの育成とボランティアによる統治を社内文化として定着させる。また、夏・冬のボランティア飲み会は「仲間づくりによる活動活性化」を図る。サンクスVクラブも会員や昔の活動家、ゲスト（他団体）との交流を行い、新規巻き込みととちコミやFB等による寄付獲得の機会と位置付ける。若者会議（1月頃）は全体の中で埋没しがちな若者に焦点をあてて、若者自身の育ち（研修）・交流・新人獲得を目的にした集会を実施する。

① 会員総会

「会員が集まる会」と位置付け、正会員の他、賛助会員にも参加を呼びかける。「予算や事業の審議は総会の

一部」とし、会員同士の交流会を開催する。

②理事会（役員会）

定期の理事会を年3回程度行う。常任理事会は随時召集する。また、年度末に事務局職員業務インタビューを実施する。理事同士・運営委員・職員のコミュニケーションを活発にする。

③F B会議

毎週木曜日（15時～16時）にフードバンクうつのみや会議（FBU会議）を開催する。事業・課題について意思決定を行う。

④懇親会

●F B感謝の集い…年間5万円以上の寄付者、職員、ボランティアを中心に参加することができる懇親会。

夏ごろを予定（会費500円+1品）。※社会状況を鑑み開催の判断を行う。